

まいんど

マインド

mind

遠寿院の行堂改革

ここ10年ほど伝統仏教教団の修行道場の荒廃が目立つ。曹洞宗は僧堂での暴力問題が再三、宗議会で取り上げられ、刑事事件も起こした。日蓮宗の中山法華経寺における荒行道場では死者まで出している。

遠寿院はこうした風潮のなかで伝師（伝法と修行の責任者）の戸田日晨（68）が2017年に行堂改革に乗り出し、昨年度は再行僧（入行2度目）4名が「行堂清規（掟）」に反する行為があった」として許状を出された。本稿は今年度の遠寿院行堂改革に焦点をあて、入行僧11名（参行2名、再行2名、初行7名）全員から個々に15分ずつインタービューを行い、その一部をまとめたものである。記事内容は行僧代表である参行（入行3度目）の片野玄晶（38）による語りが中心だが、語った事実と

この10年ほど伝統仏教教団の修行道場の荒廃が目立つ。曹洞宗は僧堂での暴力問題が再三、宗議会で取り上げられ、刑事事件も起こした。日蓮宗の中山法華経寺における荒行道場では死者まで出している。

評価は行僧全員の話と基本的に一致していた。ただし大前提として、修行中の人の精神的肉体的葛藤は相当なものであることをあらかじめ指摘しておく。

片野が最初に語ったのは痛切な懺悔だった。2011年度に再行として入行した時、彼は初行僧たちに対し暴力と怒声をもつて恐怖で縛りつけ、支配し、指導した。

片野が最初に語ったのは痛切な懺悔だった。2011年度に再行として入行した時、彼は初行僧たちに対し暴力と怒声をもつて恐怖で縛りつけ、支配し、指導した。

片野が最初に語ったのは痛切な懺悔だった。2011年度に再行として入行した時、彼は初行僧たちに対し暴力と怒声をもつて恐怖で縛りつけ、支配し、指導した。

片野が最初に語ったのは痛切な懺悔だった。2011年度に再行として入行した時、彼は初行僧たちに対し暴力と怒声をもつて恐怖で縛りつけ、支配し、指導した。

片野が最初に語ったのは痛切な懺悔だった。2011年度に再行として入行した時、彼は初行僧たちに対し暴力と怒声をもつて恐怖で縛りつけ、支配し、指導した。

藤田 庄市

ジャーナリスト

シリーズ
(81)

た。行堂秩序理念の転換である。具体的に実施したのは、伝師がすでに指示していた。

たが、「人間片野」では皆がついてこないことを自覚していた。そこで片野は初行僧がつける行堂日誌の点検に際して、法華經と日蓮の遺文を引用することにしました。初行僧の信心を励ます

（23）はいう。「自分がどちらに様々な気つき（悟り）をもたらした。一例を紹介する。初行の鈴木春暁がつける行堂日誌の点検に際して、法華經と日蓮の遺文を引用することにしました。初行僧の信心を励ますと同時にそれは自らの行でもあった。

伝師である戸田が改革にされ、満行時には「心身ともボロボロだった」。彼は自分が再行僧になったら初行僧同士が助け合う環境をつくると誓い、「今、自分

が分かるしかない」「純粹な行為したい」と入行した。また、彼は中学高校と野球部の寮生活を送ったが、そこでの体罰とシゴキから得たものは何ひとつなかった。

経験が身に刻まれていた。片野が最初に語ったのは痛切な懺悔だった。2011年度に再行として入行した時、彼は初行僧たちに対し暴力と怒声をもつて恐怖で縛りつけ、支配し、指導した。

では初行僧はどう行じたのか。最年長の48歳、富田智健の証言から堂内の実情が推認できる。

「入行前は不安でしたが、行中に不安はまったくありませんでした。20日ほど経った時、叱責されるのは1

回数によるピラミッド型支配を否定した。そして本尊である鬼子母神（尊神）と伝師の前では行僧は全員横ならびの仲間であり、先輩僧は指導を担う存在として

「初行僧のミスは再行僧の責任」

「慈悲心がありませんでした。暴力をうけた側の心の傷は消えることなく、謝っても謝りきれない。とにかく悪いことをしました」

その「罪滅ぼし」を心に、行堂改革途上の困難な時期に入行せねばならないと意を決した。

再行の松本恵信（29）は「アンドロイドではないのだから話を（首を）まとめることが大切」という。空腹と眠気に襲われ読経中に眠ってしまう者が出来た。旧来であれば「罰」として水をかぶらせ、先輩僧は後ろでその回数を数えていた。が、今回は本人が水行の回数を増やすことを自ら申し出るようになってしまった。2015年、卒業してすぐ入行。が、挫折し1月に中途退堂し、半年ほど引きこもり状態に陥った。慢心してました。自分が修行できればいいと。今回は違った。2015年、卒業してすぐ入行。が、挫折し1月に中途退堂し、半年ほど引いた。仲間に恵まれました。矢島昭輝（27）は4年間

学寮から立正大学に通い僧侶教育を十全に受けている。2015年、卒業してすぐ入行。が、挫折し1月に中途退堂し、半年ほど引いた。仲間に恵まれました。矢島昭輝（27）は4年間

00日間をいかに乗り切れるか（先輩僧が）心配してくれていることに気づきました。皆についてゆけなくして心が折れそうな時も皆さんが気にかけてくれました。仲間に恵まれました

ふじた・しょいいち／1947年東京生まれ。フォトジャーナリスト。聖護院准大先達。日本写真家協会会員。山岳修験学会評議員。著書『修行と信仰』（岩波書店）、『行とは何か』（新潮社）『熊野、修験の道を往来』（淡交社）、『四国八十八か所』（学研）、『カルト宗教事件の深層』（春秋社）、『伊勢神宮』（新潮社）ほか多数。

華経読経三昧、食事は2回の粥、睡眠時間3時間弱。0年の伝統のもと、日蓮宗遠寿院荒行堂（千葉県市川市）に11月1日から翌年2月10日まで寒百日間籠り、口伝を含め各種相伝が伝授される。毎日水行7回、法を指摘する。

集団修行 明治期に形成

成満会の朝、日久上人の墓に詣でる行僧たち（2月10日早朝、遠寿院）